

橿原市立図書館だより

平成20年1月20日発行
第10号

橿の樹

特集:

原作を読む

読書活動推進
計画

目次:

- 特集1 2, 3
- 郷土資料 4, 5
- 図書館員の本棚 6
- お知らせ 7
- 特集2 8



特集

原作を読む

図書館司書でありながらテレビっ子である私ですが、最近は何のせいか連続ドラマを全話見るのが億劫で、映画を観る本数もめっきり減ってきました。それでも図書館のカウンターに立つ以上は、テレビや、新聞、インターネットで取り上げられる本をチェックし、利用者のご質問にお答えできるよう日々情報を収集しております。そんな私が最近感じることもあります。それは漫画本のドラマ化が多くなってきたということです。個人的には漫画好きですが、榎原市立図書館にはあまり漫画がありません。

そこで今回は去年映像化された、または映像化が決定した原作本を紹介します。原作が出版されて間もなく映像化された作品もありますが、なかには古い出版のものもあります。「映像では観たことあるけど、原作本はまだ読んでない。」というものがあれば、是非読んでみてください。ただし、作品によっては原作を忠実に映像化したものと、そうでないと感じられるものがあります。悪しからず。

最近ではテレビドラマもDVD化されているものもありますので、「映像も原作もどちらもまだ見てない」という作品は両方ご覧になってください。順番はおまかせします。

個人的には去年の1月頃にドラマ化された「壊れた脳生存する知」(残念ながらDVD化はされていない。)は2004年の出版で、天声人語でもとりあげられ利用者からも問い合わせがあった本なので印象に残っています。タイトルからはカたい医学書のような印象を受けるかもしれませんが、著者は元医師で、難しい病名も多数出てきます。榎原市立図書館なら2階の13番棚に並びそうなタイトルですが、分類番号916の手記です。2階の23番棚にあります。

「モヤモヤ病」という病気の名前、聞き覚えありませんか？ そうです。去年大活躍の歌手の徳永英明氏が2001年ごろに発症した病気です。著者の山田規畝子さんは医大生の時にこの「モヤモヤ病」が発覚、その後脳出血に脳梗塞を併発し、34歳で脳に障害を負ってしまいます。その状態での日常生活の不便さを体験者の主観でありながら、実に冷静で客観的にわかりやすく描かれています。脳に障害といっても知覚や運動などの麻痺はなく、思考、記憶、学習、注意という人間の脳に備わっている機能の障害なので、外見ではわかりません。しかし、なにか行動しようとする、以前なら無意識にできたことでも、困ってしまいます。例えば階段、

そこに横走る直線があることは見えているが、登りなのか降りなのかそれともただの模様なのかわかりません。この本を読むと、人間の脳は五感から得た情報を無意識のうちに解析していることが良く理解できます。2007年2月には続編となる「それでも脳は学習する」が出版されました。これも2階の23番棚にあります。

本の映像化は大歓迎です。今まで読んだことのない本や、著者に会える絶好の機会です。しかし出来れば映像化のタイトルは原作に近いものを付けて欲しいものです。最近で困ったのは「武士の一分」です。「武士の一分っていう本ある？」と何度も問い合わせがありました。原作タイトルはなんと「盲目剣劔返し」です。もはや私には漢字の読みすらわかりませんでした。読めない人は漢和辞典を引きましょう。ちなみに「盲目剣劔返し」は短篇で「隠し劔秋風抄」藤沢周平著に収録されています。(な)

ドラマ化された本

タイトル	著者	出版社
壊れた脳生存する知	山田 規畝子	講談社
ぼくだけの☆アイドル	新堂 冬樹	光文社
私は貝になりたい	加藤 哲太郎	春秋社
輪違屋系里	浅田 次郎	文藝春秋
八州廻り桑山十兵衛	佐藤 雅美	文藝春秋
こんにちは、母さん	永井 愛	白水社
鹿男あおをによし	万城目 学	幻冬舎
しゃばけ	畠中 恵	新潮社
点と線	松本 清張	文藝春秋
ひとがた流し	北村 薫	朝日新聞社
探偵ガリレオ	東野 圭吾	文藝春秋

No
Image

No
Image

映画化された本

タイトル	著者	出版社
逃亡くそたわけ	絲山 秋子	中央公論新社
天国は待ってくれる	岡田 恵和	幻冬舎
サウスバウンド	奥田 英朗	角川書店
さらば、ベルリン	ジョゼフ・キャノン	早川書房
チーム・バチスタの栄光	海道 尊	宝島社
犯人に告ぐ	雫井 脩介	双葉社
アヒルと鴨のコインローカー	伊坂 幸太郎	東京創元社
しゃべれどもしゃべれども	佐藤 多佳子	新潮社
そのときは彼によろしく	市川 拓司	小学館
サッド・ヴァケーション	青山 真治	新潮社
包帯クラブ	天童 荒太	筑摩書房
魍魎の匣	京極 夏彦	講談社

No
Image

さて、檀原市新賀町の森村家文書の中に、明和五年（一七六八）の『内宮おどりの時分二哥之覚帳』、天明四年（一七八四）の『内宮おどり天神宮様江おとり役人附覚帳』など十点のナモデ踊り関係文書がみえる。いずれも七月・八月の作成であり、早魘が背景にあったことは言う迄もない。ここに天神宮様とあるのは、耳成山頂上に鎮座する耳成山口神社を指すことは明らかであるが、「内宮おどり」という名称は他に例を見ず、これが直にナモデ踊りを指すか否かは名称だけでは判断できない。しかし、既述の天明四年『内宮おとり天神宮様江おとり役人附覚帳』に、御へい、かく持、道行たいこ、頭たいこ、早馬、（音頭）おんとう、かね、かい（法螺貝）、中おとり、（警固）けいこ等の役割分担が記録されており、この役割分担と既述の『高取藩風俗問状答』に記されたナモデ踊りの芸態とを比較すると、符合する点が極めて多い。すなわち、「内宮おどり」はナモデ踊りに他ならないと考えることができる。因に、欠年の同家文書に「天神山雨乞願満シ南無阿弥陀踊り」とも、又宝暦二年（一七五二）八月十二日付の文書に「耳無山願満シ踊り」とも記されているから、耳成山周辺地域ではナモデ踊りが様々な呼称をもっていたことが知られるのである。

ここで、同家所蔵にかかるナモデ踊りの歌本の一部を紹介しよう。

（表紙）

明和五年

新賀むら

内宮おどりの時分二哥之覚帳（歌）

子ノ七月吉日

佐右衛門

小ねんぶつ哥

はせのをくなるけわい坂、まつ二桜ヲうゑませせて、まつにさくらがちりかゝる、をもしろやの

同断

南をはるかになかむれハ、（ま脱）あのかく山うねひ山ミみなし山ハ此れぞかや、大和の三つ山此れめいしよ

同断

いとしとのこのさらす布、一つ二つなにとかたヲ付ぞや、梅きく八重きく桜花、てん二むらくもほうかけ舟、わかさのおは^{（弥陀仏）}ニミんたあんぶ

同断

西をはるかニなかむれハ、あわじ山かかすみニミゑる、かりかね鳥かとびハたる、をも白ろやのわかさのおは^{（弥陀仏）}ニミんたあんぶ

（以下省略）

このような歌本は大和の各地に残っているが、歌詞の一部には共通するものがあるものの基本的には小地域固有のものである。右に紹介した大和三山の歌詞は、三山より南・東・西の地域での作詞とは考え難いであろう。なお、全てに共通する歌詞は、念仏がはいっている点であり、時宗の「踊り念仏」の要素をもつことは既述のとおりである。いずれにせよ、森村家所蔵のナモデ踊り関係文書は、当地域の民俗を考えるうえで貴重な存在である。

郷土資料

歲月の淘汰を生き抜いて受け継がれてきた郷土資料。それらを丹念に読み解くことで、現代に繋がる地域社会の姿が浮かび上がってきます。

耳成山天神宮ナモデ踊り関係文書

稲作を根幹とする日本の農業にとつて最も重要なことは水の供給である。就中、「大和は月夜でも焼ける」と言われるぐらい早魃に苦しんだ土地柄である。雨が降らず川の水も池水も涸れはててしまうと、稲作は大きな打撃を被る。そうになると、人々はあらゆる祭儀・呪術をつくして神仏に降雨を祈願するほかはなかった。『高取藩風俗問状答』(大和国史会編『大和志』五巻一号〜四号所収、昭和十三年)に、「早魃候(諫)得者産土神に夜蔵(籠?)いたし大鼓を敲きて神をいさめ雨を乞候、又龍池有之所にて祈り候、(中略)雨を乞ひ候に踊をいたし神いさめいたす村も御座候」とあるように早魃時には太鼓を敲き踊りをして神に降雨を祈願したのである。この踊りを「イサミ踊り」といった。

このイサミ踊りに対し、雨乞の結果慈雨に恵まれると、雨乞願満の御礼に奉納されたのが「ナモデ踊り」である。同じく『高取藩風俗問状答』に、「南無手踊ナモデ 早の年雨乞の立願し降し時御礼に踊る、願満踊ダワンマンシオドリといふ、所々に御座候」とある。その芸態については、「高取城下の式は行列又場所にて警固に天狗の面、或は鬼の面をかふりたるもの棒をつき群集の人を拂ふ、其次早馬イヤマと申おとり子小太鼓を持唐子衣裳花笠、其次中踊ナカと申色々の染帷子花笠花を持村も有、音頭取は華笠染帷子にして所持所々に

分りて拍子をとる、頭太鼓は唐子衣裳花笠、踊の内に赤熊を加ふることもあり、此太鼓に合せて踊る、法螺貝・横笛・叩鐘にて調子を合合る、押にははら(腹)太鼓として後に御幣を負ひはら(腹)に太鼓を括りつけ帯を引かけ赤熊をかふる、踊は壱番より五番まで手をかへ踊り候」と記録され、「三輪布留大和意生社にても郷中より南無手踊有之、大概は相ヨフ似たる事也」とあるように、芸態については地域的に大差はなかったようである。なお、ナモデ踊りは奈良市大柳生、都祁村吐山などで現在に伝承され、太鼓踊りとも呼ばれている。また『なもて踊り覚書』『改訂天理市史料編一』所収)に、「南無阿弥陀仏踊 旧記云、布留乃なもてをとり事、その権輿しれ有し大和の国のなもてをとりハ、此布留郷より事をこれり、南無阿弥陀仏踊と書て、なもてをとりとよめり、或ハ雨乞のときか、あるときハ神にいのりのとき、願をたてハ此をとりを執行なり」とあり、ナモデ踊りという名称が南無阿弥陀仏踊に由来することを述べている。鎌倉時代の『一遍聖絵』に、時宗の徒が鉦鼓を敲いて調子をとりに念仏を唱えて踊る光景が描かれているが、ナモデ踊りはこの時宗の「踊り念仏」の要素がはいっていると多くの研究者の興味深い指摘があり領ける見解といえよう。

以上のように、雨乞立願の踊りであるイサミ踊りと雨乞願満の踊りであるナモデ踊りはその目的は異なるものであるが、既述の『なもて踊り覚書』にあるように雨乞のときに執行されるとあることから名称もイサミ踊りと混同されているし芸能の内容は両者とも全く同じであったことが知られるのである。

図書館員の本棚 (1)

「山のむこうは青い海だった」 今江 祥智／作 長 新太／絵 理論社

しばらく前に「ALLWEYS～3丁目の夕日～」という映画が話題になりました。この映画が話題を集め、興行的に大成功を収めたのは、ただ映画の内容が面白いというだけではなく、さまざまな問題を抱えて疲弊した現代社会が豊かさと引き換えに失ってしまったものへの思いが、人々をこの映画に駆り立てるのでしょうか。

この物語の背景も、昭和30年代ごろ、まだ戦争の影を残しながらも、高度成長期に入って行く日本。主人公は中学1年の少年、物語の始まりは入学式の日、新しい先生と友だちとの出会い、そして、中学最初の夏休み、書置きを残して一人列車に乗ります…。行き先は、幼いころには何度も行った記憶があるお母さんの故郷、和歌山県の山間、紀ノ川沿いにある小さな町。懐かしい人たちとの再会、幼馴染とその友だち、蛙釣りやきつね狩り、川遊び等々、大自然の中では都会の子どもも田舎の子どもも同じ。町に1つしかない中学校での町をあげての夏祭り、浴衣、屋台、お化け屋敷、花火大会、そしてちょっとコワイチンピラたちが引き起こす事件に巻き込まれ……。

小学校の高学年だったか、中学の初めのころかは忘れてしまいましたが、当時、同じクラスの優等生の男の子がこの本を読んでいて、「さてはどんな本を読んでいるのか」との好奇心で図書室から借りて読んだのが最初です。最初ですということもおかしいですが、その後書店で文庫本を見つけ、“愛蔵書”となっているものから。

最初に読んだときは、主人公を始め登場する多くの友だちが自分と等身大であり、読み進むうちにいつのまにか、自分も物語の1登場人物となっていきました。また長新太さんの絵が面白い！そして、物語の最後を締めくくる詩がとても感動的なのです。

月並みですが、この本には、田園、野山、美しい川という日本の原風景があり、何より友情や勇気、初恋、さまざまな体験をしながら大きく成長していく子どもたちと優しく見守る大人たち、冒頭で触れた映画と同じく、人々が毎日を一生懸命に生きていた時代が描かれています。

時代が変わり、どんなに風景が変わっても決して変わらないもの、変わってはいけないもの、それを私に気づかせてくれた本なのです。そして、読み返すたびに新たな感動を与えてくれる本なのです。(に)

No
Image

プロフィール

今江 祥智
いまえ よしとも

1932生まれ。児童文学作家。「ぼんぼん」にて児童文学者協会賞、「兄貴」にて野間児童文芸賞、「でんでんだいこいのち」にて小学館児童出版文化賞。その他著書多数

ブックリスト 今江 祥智の作品

「絵本の新世界」

大和書房

「海色の部屋」

理論社

「ポケットにいっぱい」

理論社

お知らせ

DVDの貸出を始めました

お手続きは、ビデオ・CD等の視聴覚資料と全く同様です。

「あなたはこの真実を知っていますか？ 戦争・抑留・引揚」日本広報センター

「歴史街道」歴史街道推進協議会

「枝雀落語大全 第1～第40集」東芝EMI

「淡海と生きる 琵琶湖」WWFジャパン

「サンゴ礁とともに 石垣島・白保」同上

「里海と生きる 有明海・鹿島」同上

「日本のまつり 東海編 春夏秋冬」地域伝統芸能活用センター

「日本のまつり 東北編 春夏秋冬」同上

「日本のまつり 九州・沖縄編 春夏秋冬」同上

「裁判員 選ばれ、そして見えてきたもの」最高裁判所

「裁判員制度 もしもあなたが選ばれたら」法務省

「日本の国際平和協力 東ティモール国際平和協力業務の記録」日本広報センター

「にほんごであそぼ 万斎まんさい」NHKソフウェア



その他「新着視聴覚資料のご案内 VOL. 193」をご覧ください。

その他のお知らせ

1. 特別整理期間に伴う休館と特別貸出について

蔵書点検作業を行うため、2月15日(金)より2月29日(金)まで休館させていただきます。

なお、休館に伴う特別貸出を2月1日(金)から2月14日(木)まで下記のとおり行います。

冊数 ひとり10冊

貸出期間 4週間

(ただし、視聴覚資料については、貸出数はそのまま、貸出期間のみ4週間となります)

2. 作品展示 木目込み作品展

2月1日より3月末まで、2Fカウンター前展示コーナーにおいて、作家辻本香祥先生と香祥会員による「雛人形展」をおこないます。

3. おはなし会

毎月土曜日午後3時より、1Fおはなし室で下記のとおりおこなっています。(事前申込み不要)

「ちいさい子の日」

おおむね3歳～6歳児が対象

第1土曜日「絵本の読み聞かせ」

第2土曜日「ストーリーテリング」

「おおきい子の日」

おおむね小学校低学年～中学年の児童が対象

第3土曜日「絵本の読み聞かせ」

第4土曜日「ストーリーテリング」

4. 破損図書について

図書の破損等に気付かれた場合は、返却時に図書館員までお知らせください。専用の修理材料を用いて図書館で修理しますので、家庭用セロハンテープ、のり等による各自での修理はご遠慮頂きますようお願いいたします。

檀原市立図書館

〒634-0075
檀原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

がんばれ「キョウエタオトコ」

先日、車を運転していた時のこと。カーラジオでは競馬中継が始まり、出走予定の馬たちの名前が読みあげられ始めました。ユキノサツシュ、マイネルコルベット、スナークマイハート……。いかにも競走馬といった名前が続いてゆく中に、一頭、思わず耳を疑いたくなる馬名が呼ばれました。

キョウエタオトコ……。空耳では、と疑ったのもつかの間、アナウンサーは当然のようにそう繰り返します。競馬とは無縁な生活をしているので、そんな名を冠した競走馬がいることも初めて知った次第でした。

ジャン・ジオノ原作「木を植えた男」は、一時期図書館でも大変な人気だったのですが、近頃は新刊書の洪水におされてしまい、以前ほどの貸出数はありません。

ファンファーレが鳴り響き、直ぐに出走が始まりました。熱を帯びた中継が、キョウエタオトコと連呼しています。こちらまで、ハンドルを握る手が思わず熱くなってしまいました。

結果は2着。「持久力はあるが派手さが無い」とは解説者の弁。書架の片隅で読者を辛抱強く待っている地味な一冊と、ダートを疾走してゆく後姿が重なりました。(い)

読書活動推進の歩み

檀原市立図書館では、乳幼児や若年利用者の皆さんに、これまでも増して図書館と図書に親しんでいただきたく、読書環境を整える取り組みを始めています

(1) 児童書コーナーの充実

「絵本コーナー」「小さな絵本コーナー」を設置しました。履物を脱いでコルク床の上になり、リラックスした雰囲気の中で絵本を楽しむ環境を整えました。



(2) 新しい試み

図書館内や公共施設において読書活動の推進を市民自らに担っていただく目的で、図書館ボランティアが発足しました。図書の修理などを行う「修理班」と、子どもたちに読み聞かせを行う「おはなし班」の2分野に分かれて、現在29名の市民の方が登録、活動されています。



(3) 檀原市子ども読書活動推進計画



19年度内策定を目標に、昨年6月に「檀原市子ども読書活動推進計画策定委員会」が設置されました。地域文庫等図書に携わっている方にも参加いただき、専門家を招いてのワーキング会議を重ね、議論を深めてきました。

現在、パブリックコメントの募集を終えて、最終案作成に向けて作業を進めています。

(4) 様々な催事を通じて

様々なイベントをきっかけとして、新しい利用者や来館者を開拓することで、より多くの方に図書館と読書活動に関心を持っていただけるよう心がけています。



県内の公立図書館が参加した
県立図書情報館で行われた読書推進パネル展

表紙の写真

檀原市立図書館では、毎週水曜日(10:00~12:00)に、乳幼児連れの利用者の皆さんに、絵本の読み聞かせサービスを行っています。詳しくは当日カウンターにお申し込みください。